令和４年度

学校評価報告書

＜学校評価結果のとりまとめ＞

学校教育目標

『心身ともに健康で 人間性豊かな たくましい子どもの育成』

めざす子ども像

「正しく　強く　はつらつと」

- ○ よく考え進んで学ぶ子(知育)
- ○ 心豊かな思いやりのある子(徳育)
- ○ 健康でたくましい子(体育)

山梨市立後屋敷小学校

令和４年度　後屋敷小学校学校評価について

１．学校評価の目的

①学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、めざすべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。

②学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。

③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

２．学校評価に関する規程

(1)学校教育法

平成 19 年 6 月に学校教育法を改正し、第 42 条において学校評価に関する根拠となる規定、第 43 条において学校の積極的な情報提供についての規定がされている。

【第 42 条】 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

【第 43 条】 小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。

これらの規定は、幼稚園(第 28 条)、中学校(第 49 条)、高等学校(第 62 条)、中等教育学校(第 70 条)、特別支援学校(第 82 条)、専修学校(第 133 条)及び各種学校(第 134 条第 2 項)に、それぞれ準用する。

(2)学校教育法施行規則

上記の学校教育法第 42 条の規定を受けて、学校教育法施行規則を平成 19 年 10 月に改正し、自己評価の実施・公表(第 66 条)、保護者など学校関係者による評価の実施・公表(第 67 条)、それらの評価結果の設置者への報告(第 68 条)について、「文部科学大臣の定めるところ」の内容について規定した。

【第 66 条】 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。
前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

【第 67 条】 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者(当該小学校の職員を除く。)による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

【第68 条】 小学校は、第66 条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

これらの規定は、幼稚園(第 39 条)、中学校(第 79 条)、高等学校(第 104 条)、中等教育学校(第 113 条)、特別支援学校(第 135 条)、専修学校(第 189 条)、各種学校(第 190 条)に、それぞれ準用する。

３.後屋敷小学校の学校評価の目的

学校評価は、それ自体が目的ではなく、あくまでも学校の教育目標の実現に向け、教育活動がどこまで有効に行われたかを見直し、教育の水準の向上を図るための手段である。そして、学校評価は、「子どもたちの変容(よりよい成長)」をめざしたものでなければならない。「子どもたちの変容」こそが学校改善の中心となると考える。

学校評価の具体的な目的は次の3点となる。

①組織としての学校がどのように機能しているのか、つまり、どのような目標・計画・実施により、どのような成果を挙げたのか、また、課題を解決するためにどのような改善が必要なのかを明らかにすること。

②学校における教育活動やその評価結果について保護者や地域の方々に説明し、様々なご意見をいただくことによって、開かれた学校づくりを推進し、一層の学校改善に向けての組織的な取組につなげていこうとすること。

③学校、家庭、地域の果たすべき役割を認識し、双方向の連携による教育の充実をめざすこと。

本校では、2学期に学校評価を実施する。この時期に学校中間評価を実施し、1年の折り返し点にあたりこれまでの成果や課題を全員で確認し合い改善へ向けて取り組みたい。(P→D→C→A マネジメントサイクルの実践)
それぞれ、速やかに集計・分析を行い、改善に向けて次の目標や具体的な教育活動に反映していきたい。

4. 学校評価の形態

平成 22 年 7 月 20 日に改訂された学校評価ガイドラインを参考に、本校での学校評価の実施手法を(1)自己評価と(2)学校関係者評価の2つの形態にする。

(1)自己評価

自己評価は、学校評価の最も基本となるものであり、校長のリーダーシップの下で、本校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行う。

(2)学校関係者評価

①令和4年度学校関係者評価の評価委員は、学校運営協議会委員７名（除学校職員）とする。
②学校関係者評価は学校評価委員が、学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本とする。
③教職員による自己評価と学校評価委員による学校関係者評価は、学校運営の改善を図る上で不可欠のものとして、有機的・一体的に位置付ける。

(3)児童・保護者対象のアンケート(外部アンケート等)

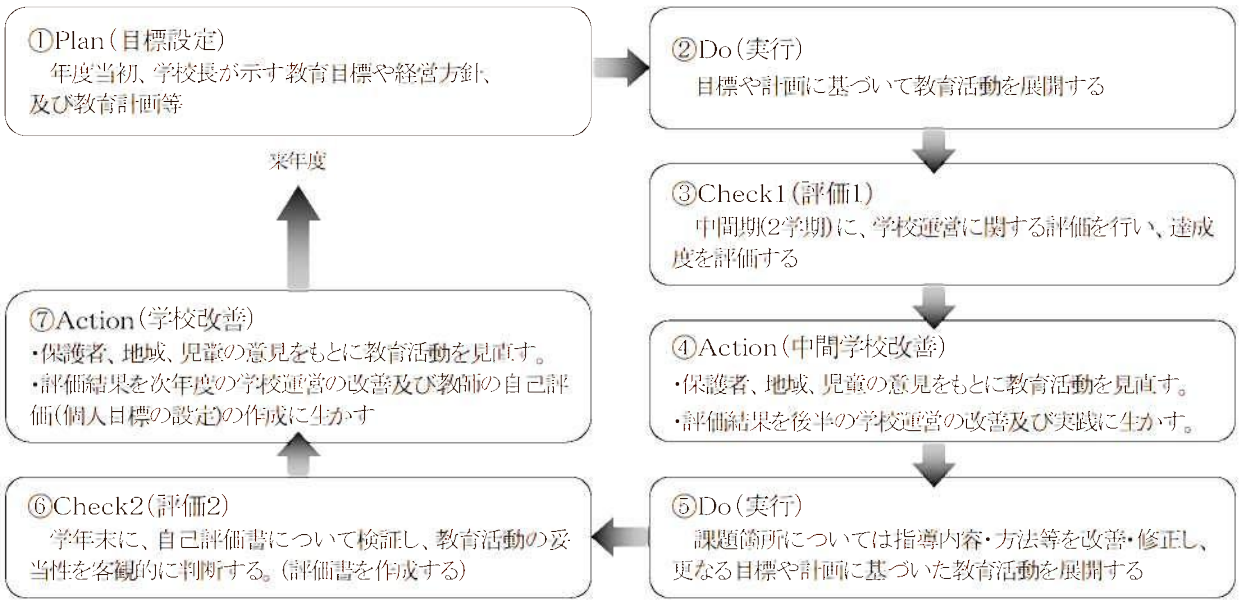
自己評価を行う上で、児童や保護者を対象とするアンケートにより児童・保護者がどのような意識をもっているかを把握する。

(4)学校の第三者評価

学校教育法に規定されている学校評価の一環として、学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、教育活動その他の学校運営の状況について、専門的視点から評価を行う。(努力目標であるため実施せず。)

5. 学校の評価システムについて

(1)学校評価の流れ



以上のように教育の質的向上をめざし、保護者や地域との更なる信頼関係の確立を図るため、P→D→C→A のマネジメントサイクルを継続的、計画的に実施していく。

6．本年度の学校評価

(1) 目標設定に関わって

学校教育目標
『心身ともに健康で人間性豊かなたくましい子どもの育成』

めざす児童像

「正しく強くはつらつと」

○よく考え進んで学ぶ子(知育)
○心豊かな思いやりのある子(徳育)
○健康でたくましい子(体育)

※目指す児童像を右のように捉え、それを目標評価 に対する児童の具体的評価規準像ともしていく。

正しく
・自分や他の人の行動について善悪の判断ができる。
・正しい行動ができる理想の人がイメージできる。
・思いやりを持って人に優しくできる。

強く
・自分に厳しく、他に優しい。
・苦難に負けず強い意志を持ってやり抜く。
・理想に向かって努力できる

はつらつと
・明るく、元気、はきはきと生活できる。
・前向きの姿勢(プラス思考)で積極的に行動できる。
・自分のよいところを知り自信を持って物事に挑戦する。

(2) 本年度の最重点について

めざす児童像実現に向け、教師の支援のもと、児童一人一人に主体的に目標を持って取り組ませていく事が大切である。その際、児童-教師の関係や教師-教師の関係がよりよいものであることが大変重要となる。そこで、「笑顔の後屋敷小」をキーワードとして、みんなが笑顔になれる学校を目指して教育活動をすすめていく。

特に、「学力の向上」と「適切な児童理解」について取り組み、児童一人一人が笑顔で登校できる学校づくりを目指していきたい。

(3) 児童の努力目標について

児童の努力目標を次の4点とし、それらを支援すべく、教師の支援、指導の取り組みを粘り強く展開し、継続していく。

①学習への取り組み ―――― ・自分の考えや解決ができたか
②明るい挨拶と生活 ―――― ・誰にでも明るく振るまえたか
③思いやりの心 ―――― ・（もし自分だったら）と相手の立場に立ち考えられたか
④仲間づくり ―――― ・元気に仲よく遊べたか

7．評価の算定方法

「自己評価」「児童・保護者アンケート」項目のすべてを4段階評価で統一する。4段階は「4…そう思う」「3…どちらかといえばそう思う」「2…どちらかといえば思わない」「1…思わない」を基本とする。

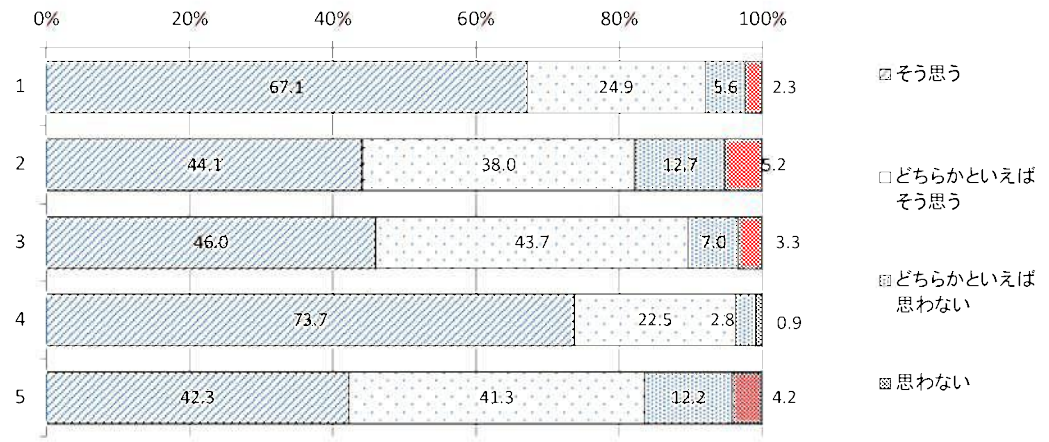
アンケートでは質問内容によって回答をかえる。各質問への回答で、つぎのように平均した換算値(実現率)を求めその率により優先課題度及び優先順位をつける。さらにそれらを5段階評価し、各項目の反省にするとともに今後の方向性の判断基準としていきたい。

評価	換算値	状況と方向
A	3.2 以上～ (80%～)	十分達成していると捉える
B	2.8 以上～3.2 未満 (79～70%)	達成しつつあると考えられ、良好な状況であり継続する
C	2.2 以上～2.8 未満 (55～69%)	指導内容や目標達成状況等について再度吟味し、必要に応じて対策を講じる
D	1.6 以上～2.2 未満 (40～54%)	原因を探り課題を明確にして、指導内容・方法等を改善・修正する
E	1.6 未満～ (40%～)	緊急の学校課題と捉え、全校挙げて問題解決のための具体策を講じる

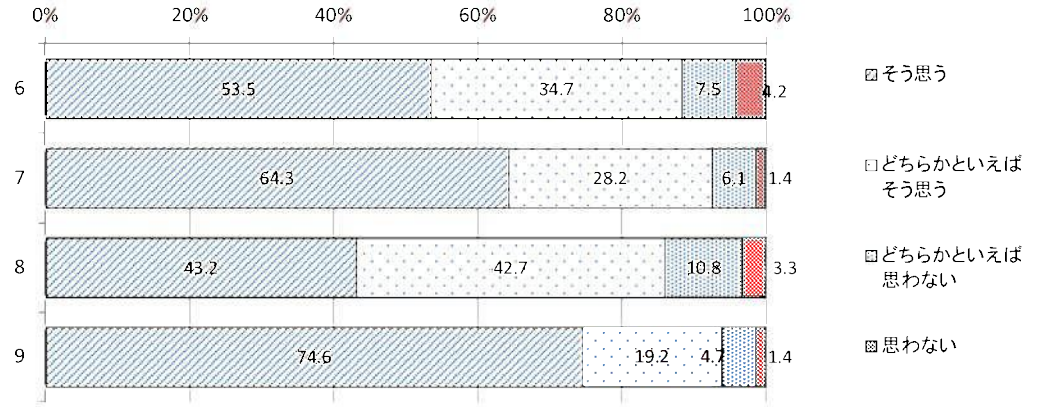
◇児童アンケート集計結果　（９月実施）

アンケート回収率99.5%（213 /214）

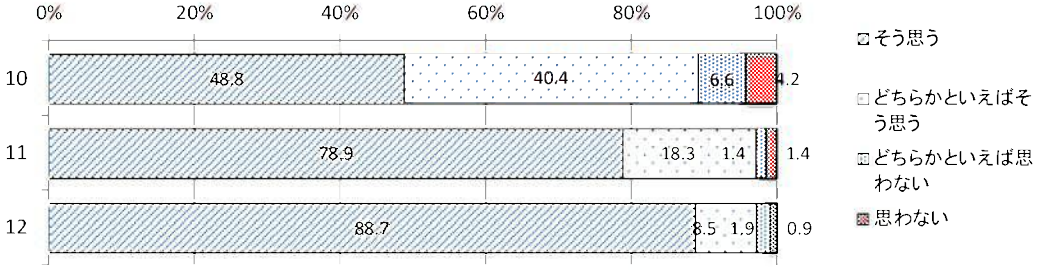
No.	令和4年度	換算値(前年)	実現率	評価
1	学校は楽しい	3.6 (3.6)	90.0%	A
2	勉強するのが楽しい	3.2 (3.2)	80.0%	A
3	進んで学習している	3.3 (3.3)	82.5%	A
4	友達と一緒に勉強するのは楽しい	3.7 (3.7)	92.5%	A
5	英語科の学習をするのは楽しい	3.2 (3.2)	80.0%	A



6	進んで挨拶をしている	3.4 (3.6)	85%	A
7	明るい気持ちでいつも生活している	3.6 (3.6)	90%	A
8	いつも自分の考えや気持ちを素直に伝えたりしている	3.3 (3.3)	83%	A
9	名前を呼ばれたら「はい」と返事をしている	3.7 (3.7)	93%	A



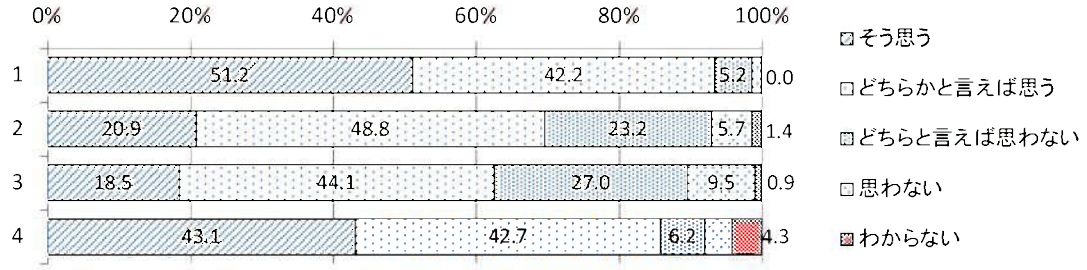
10	いつも相手の立場を考えて過ごしている	3.3 (3.3)	82.5%	A
11	友達と仲良く過ごしている	3.7 (3.7)	92.5%	A
12	休み時間など友達といることが楽しい	3.8 (3.8)	95.0%	A



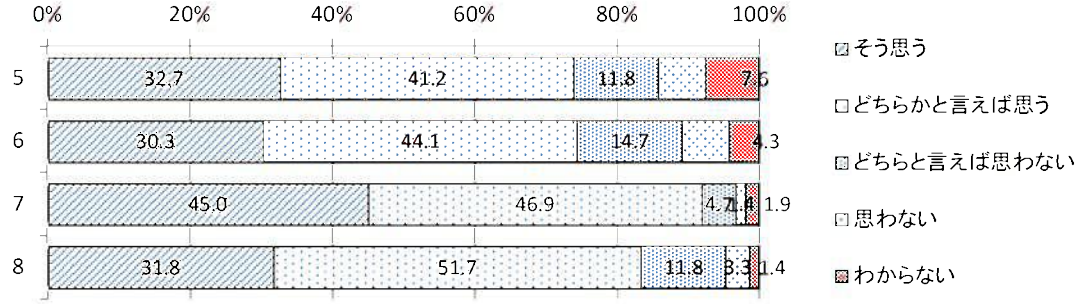
◇保護者アンケート集計結果　（９月実施）

アンケート回収率98.4%（211 /214）

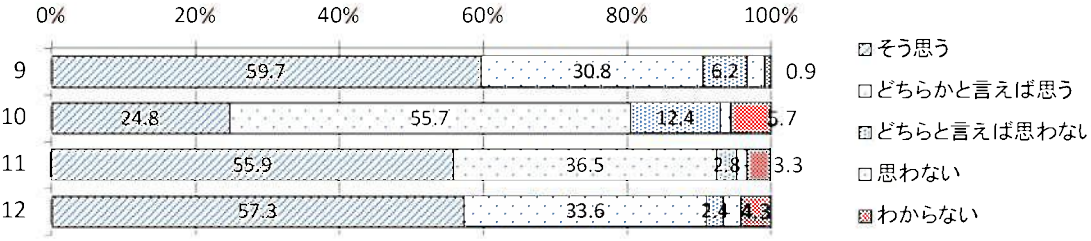
No.	令和4年度	換算値(前年)	実現率	評価
1	お子さんは 学校は楽しいと感じている	3.4 (3.5)	85.0%	A
2	お子さんは 勉強が楽しいと感じている	2.9 (2.9)	72.5%	B
3	お子さんは 進んで学習している	2.7 (2.8)	67.5%	C
4	お子さんは 友達と一緒に勉強するのは楽しいと思っている	3.3 (3.4)	82.5%	A



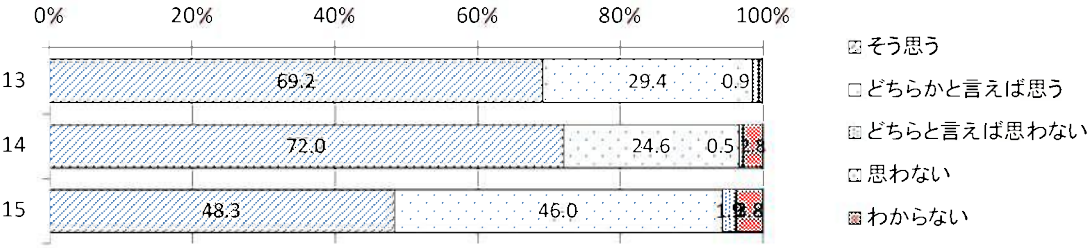
5	お子さんは　英語に興味を持ち，英語科学習を楽しく学んでいる	3.1 (3.1)	77.5%	B
6	お子さんは 進んで挨拶をしている	3.0 (3.1)	75.0%	B
7	お子さんは 明るい気持ちでいつも生活している	3.4 (3.4)	85.0%	A
8	お子さんは いつも 自分の考えや気持ちを素直に伝えている	3.1 (3.2)	77.5%	B



9	お子さんは 名前を呼ばれたら「はい」と返事をしている	3.5 (3.3)	87.5%	A
10	お子さんは いつも相手の立場を考えて過ごしている	3.1 (3.0)	77.5%	B
11	お子さんは 友達と仲良く過ごしている	3.5 (3.5)	87.5%	A
12	お子さんは 多くの友達といることが楽しいと感じている	3.5 (3.8)	87.5%	A



13	ご家庭では 学校や子どもの様子を知るようにしている	3.7 (3.7)	92.5%	A
14	授業参観や学校開放日などは，子どもの様子を知る良い機会になっていると思う	3.7 (3.7)	92.5%	A
15	学校は家庭との連絡や保護者・地域に丁寧に対応できている	3.5 (3.6)	87.5%	A



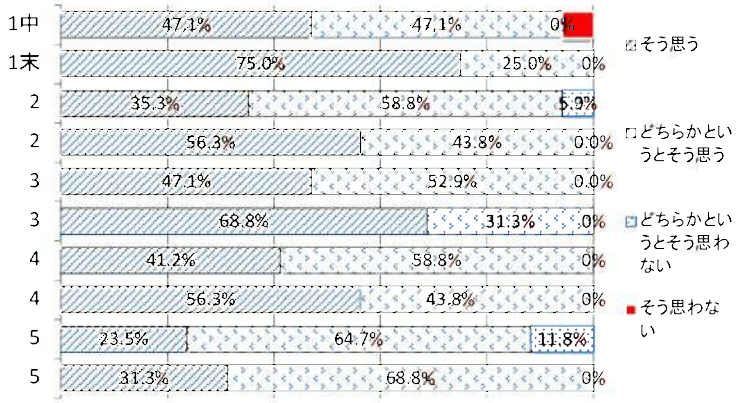
◇自己評価集計結果　（ 中間・学年末 実施 ）

調和の取れた人間形成を図る適切な教育課程

（1）児童がめざす子ども像に育つよう取り組んでいる。
（2）年間指導計画にしたがって、学習指導を行うことができている。
（3）授業時数が確保できている。
（4）指導方法を改善・工夫しながら取り組んでいる。
（5）教育課程の工夫と改善により，英語科教育の充実に努めることができている。

（）内は昨年値

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
1	3.4（3.5）	85.0%	3.8（3.3）	95.0%	A	○昨年度の換算値や今年度の中間期と比べ、改善がみられる。教育課程実施にむけて、教師が気をつけて進めてきた結果が表れた。
2	3.3（3.3）	82.5%	3.6（3.2）	90.0%	A	
3	3.5（3.5）	87.5%	3.7（3.4）	92.5%	A	
4	3.4（3.4）	85.0%	3.6（3.2）	90.0%	A	
5	3.1（2.9）	77.5%	3.3（3.1）	82.5%	A	



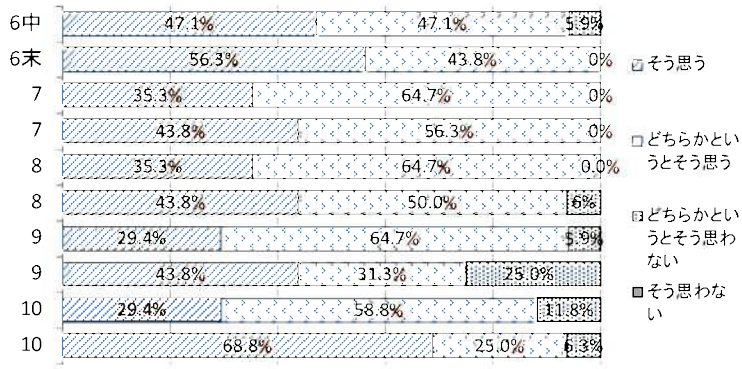
○今後も教育課程に沿って指導を進めていきたい。
▲カリキュラム・マネジメントへの取り組みがまだ進んでいない。
【来年度に向けて】
○英語科教育について時数やJTE・専科、打ち合わせの仕方（時間）等々、よりよい方法を検討していくほうが良い。
○行事などの時期に合わせて教育課程の時期や内容を見直していくと良いかな
○一人一台端末によって、指導の幅は広がったが、指導するべき内容も同時に増えた。教育課程も精選しながら、学習内容を扱っていく。情報活用能力の発達段階に応じた位置づけを進める。

確かな学力の向上

（6）指導の内容を明確にし、基礎・基本を確実に定着させる授業実践をしている。
（7）一人一人の児童のやる気を引き出すような各教科指導に心がけている。
（8）児童が自分の考えや気持ちを素直に表現できるよう工夫している。
（9）特性のある児童の実態に応じて、指導計画を立て指導方法や環境の工夫をしている。
（10）一人一台端末を授業に効果的に取り入れるなど，ICTを有効活用している。

（）内は昨年値

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
6	3.4（3.4）	85.0%	3.6（3.4）	90.0%	A	○確かな学力の向上に向けて、先生方が意識し来て取り組んでいる様子が分かる。やまなしスタンダードや校内研の取り組みもあり、(6)や(10)については高い評価をしている。
7	3.4（3.3）	85.0%	3.4（3.3）	85.0%	A	
8	3.4（2.9）	85.0%	3.4（3.2）	85.0%	A	
9	3.2（3.1）	80.0%	3.2（3.0）	80.0%	A	
10	3.2	80.0%	3.6	90.0%	A	



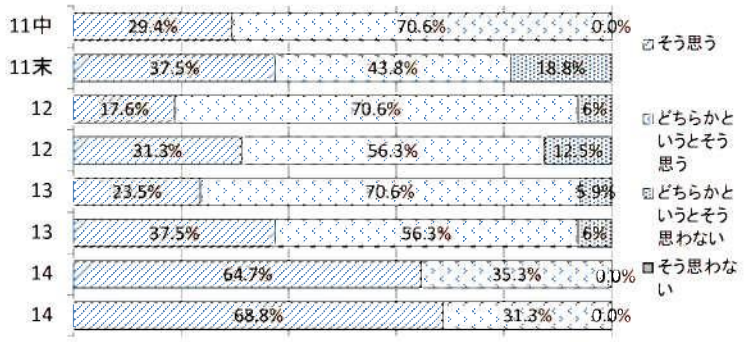
○ICTの活用方法を校内研で何度も取り組んでいただけたことがありがたかった。端末やICT利用等について、さらに研究や実践を深めていけるとよい。
▲一人一台端末の家庭への持ち帰りによる学習について、課題の与え方や内容を共有していった方がよい。
【来年度に向けて】
○ICTの活用とアナログ（教科書やノート）の活用や使い分け、デジタル教材活用の仕方など検討していく。そのために校内研の充実研修会への参加等を進める。
○学力を身に付けるための土台作りとして生活習慣、心の健康、居心地の良い学級づくりなどを整える。

豊かな人間性を育み、心の安定を図る生徒指導

(11) 望ましい学年・学級集団に近づいている。
(12) 児童は友達や教師との人間関係もうまくいき心身の健康が保たれている。
(13) 児童は互いに認め合い明るく元気に活動している。
(14) 児童理解を深め、心身の問題の早期発見、早期対応に努めている。

( )内は昨年値

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
11	3.3 (3.4)	82.5%	3.2 (2.9)	80.0%	A	○2年間のコロナ禍における学校生活の変化に対応し、教師が工夫した学年・学級運営を進めている。特に、児童理解や問題対応に努力している。
12	3.1 (3.3)	77.5%	3.2 (2.9)	80.0%	A	
13	3.2 (2.9)	80.0%	3.3 (3.2)	82.5%	A	
14	3.6 (3.1)	90.0%	3.7 (3.4)	92.5%	A	



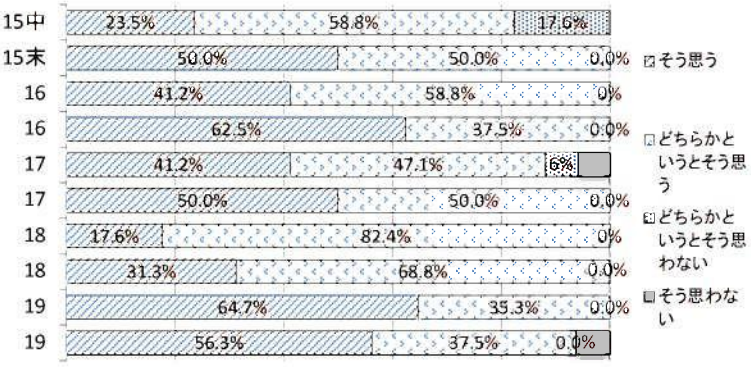
○複数の教員で児童をみとることができていると感じ、ありがたい。
▲問題を抱えた児童が多く、相談やケース会議など多く開けるような環境にしていきたい
【来年度に向けて】
○生徒指導と児童会の取組をリンクさせるなどして児童が自ら意識し、児童同士が高めあっていけるような取組を増やしていく。
○職員間での生徒指導上の情報共有や研修会の実施。一人で抱え込まず、ケース会議などチームで対応できるようにしていける体制の充実を進める。
○心の健康教育の取組や全児童と担任との面談時間の確保する機会を図る。

体力・健康・安全に関する指導の充実

(15) 体力・健康・食に関する指導に努めている。
(16) 毎日の学校生活が明るく元気に過ごせるよう保健・安全の配慮がされている。
(17) 生活安全、交通安全、災害安全について計画的に指導している。
(18) 心身の健康を保障し児童にとって良き環境である。
(19) 感染症や熱中症など十分配慮して対応している。

( )内は昨年値

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
15	3.1 (3.0)	77.5%	3.5 (3.3)	87.5%	A	○コロナ禍の中生活の制限等もあるが、中間期から現在にかけて体力や健康などできることを工夫改善して取り組んできたているため、評価も上がっている。
16	3.4 (3.5)	85.0%	3.6 (3.5)	90.0%	A	
17	3.2 (3.4)	80.0%	3.5 (3.6)	87.5%	A	
18	3.2 (3.2)	80.0%	3.3 (3.2)	82.5%	A	
19	3.6	90.0%	3.4	85.0%	A	



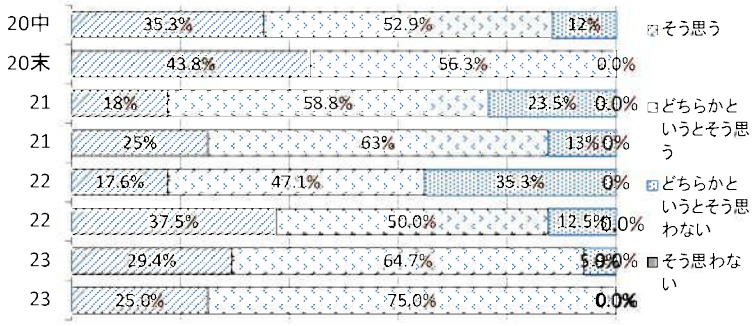
○安全面については、安全点検や様々な様子を受けて対処できていると思う。
▲心身の健康に関わって、教室以外の居場所が必要な児童に、どんな環境をつくってやれるか共有できると良い。
【来年度に向けて】
○コロナウィルスが5類に変更されるので、マスク着用や健康チェックカード、生活環境や生活様式などの見直しを進める。
○体力テストの課題から，改善できる取組を行っていく。また、運動をしない児童に対して運動の機会を増やしていけるような取組を考えていく。
○感染症や熱中症などの状況聞くと速やかな対応を進める。

開かれた学校づくり

(20) 家庭や、地域と信頼ある連携が図られている。
(21) 学校開放日や学年部会、地区懇談会等を活用し、情報交換が図れている。
(22) 地域素材の教材化及び家庭や地域社会の人材活用が有効に行われている。
(23) 学校運営協議会を通して、学校と地域が結びつき、教育問題の改善が進められている。

( )内は昨年値

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
20	3.2 (3.1)	80.0%	3.4 (3.1)	85.0%	A	○コロナ感染状況を考えていくと、今年も学校行事の中で学校開放や学年部会など中止をしなければならないことが多く、情報交換は個々の保護者との対応となるため、(21)の評価は低くなってしまった。
21	2.9 (2.5)	72.5%	3.1 (2.3)	77.5%	B	
22	2.8 (2.5)	70.0%	3.3 (2.7)	82.5%	A	
23	3.2	80.0%	3.3	82.5%	A	



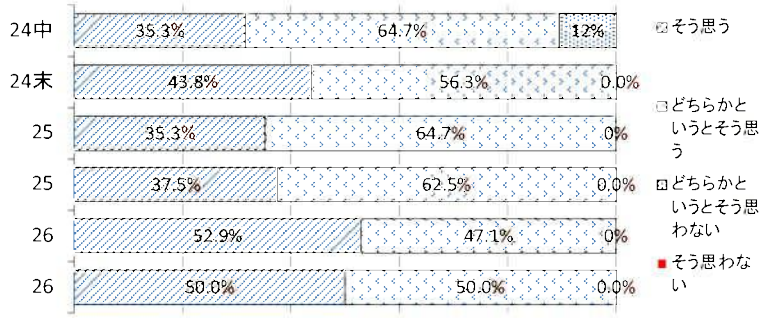
○学年だよりで学級の様子を伝えたり、保護者と電話でやり取りをしたりして、保護者との連携を図るよう努めている。
▲コロナ禍で地域との関わりが少なくなっているように感じる。
【来年度に向けて】
○学校開放日に多くの保護者が学校や児童の様子を参観することで家庭と学校での連携がより密になるので、コロナの状況を見ながら進めていく。
○開かれた学校として地域と結びついていくことは大切なので、渉外が複雑化せず、地域と連携できるよう
学校運営協議会、PTA活動を中心とした協働を進める。

教職員としての力量を高め、信頼される学校づくり

(24) 教職員が互いに共通理解を図り、協働体制で学校運営の一翼を担っている。
(25) 進んで研究と修養を重ね、自己の資質及び能力の向上に努めている。
(26) 保護者との連携に努め、相互に協力し合い児童の育成にあたっている。

( )内は昨年値

	中間換算値	中間実現率	年度末換算値	年度末実現率	評価	コメント
24	3.4 (3.4)	85.0%	3.4 (3.3)	85.0%	A	○教職員の協働体制や研究と修養については高いポイントを示している。コロナ禍の中でも、保護者との交流を工夫したため、昨年同様の水準を保てている。
25	3.4 (3.4)	85.0%	3.4 (3.4)	85.0%	A	
26	3.5 (3.5)	87.5%	3.5 (3.3)	87.5%	A	



○終礼で意見を交流したり、校内研で様々なことを学んだりして力量を高められていると思う。
▲学校内で問題のある児童について、ケース会議を行いたい。
【来年度に向けて】
○学校から地域へ積極的な学校教育活動の情報公開を図る。
○教職員がチームとなり同じ方向を向いて学校運営をしていくために、教員同士のコミュニケーションを高める機会を増やす。
○学力向上や児童理解に努め、学校が児童にとって豊かで安心安全な居場所となるよう職員同士や保護者との連携を高めていきたい。

その他の意見(改善案)

○学年研修の必要性については検討が必要のように感じる。10才式や6年の感謝の会などは良いが、学年によっては親子活動のための企画になっているように感じる。
○コロナが終息に向かえばリモートの集会を全校で集まる形に戻したい。
○運動会や後小まつりなど、大きな行事を回す際、担当には大きな苦労や負担がかかる。一方で、その行事を通して子どもたちの成長を感じられるのも教師のよさであると思う。担当した先生が、「大変だったけどやってよかった」と思えるように行事運営ができるよう一丸となっていきたい。
○秋の行事がたて混んでいるので、後小まつりの開催時期や方法等を改善できると、行事のバランスがとれるのではないか。
○授業参観の回数が，周辺の学校よりも多いようだ。秋の行事が多いので、2学期の授業参観について検討をしてもよい。
○校外学習のあり方を考えていく必要があると思う。お弁当もちで1日毎年行くのは場所や内容などを考えて難しい
○多忙化解消に向け、行事の内容や方法等について、削減や縮小ができるよう工夫できるところはしていきたい。

□　来年度の後屋敷小教育の改善にむけて

調和の取れた人間形成を図る適切な教育課程

■児童・保護者アンケートから

「学校は楽しいか」の質問に対して、児童は92.0%、保護者も92.0%が「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答しています。また、「友達と仲良く過ごしている」⑫「友達といることが楽しい」は、児童⑪97.2% ⑫97.25%、保護者⑪92.4%⑫91.0%が肯定的な回答をしています。コロナウィルス流行による感染対策や生活様式の変更にも慣れ、多くの子ども達が学校に満足感を持ち、明るい気持ちで登校しているという実態がうかがえます。そして、学校生活を楽しいと感じる要素として、良好な人間関係があげられます。一部の楽しさを感じられていない児童のためにも、さらにより良い人間関係を築いていく必要を感じます。

■自己評価から

①から④の項目で実現率が90.0%を超える高い数値を示しています。また、昨年度の課題であった英語の授業時数の増加による1日2時間授業は、市教委の英語専科・ALT・JTEの配置地について考慮され、1日2時間授業をすることもなくなったため、昨年度より評価が上がってきている。引き続き打ち合わせをする時間を確保することが課題として挙げられている。

■改善のポイント

コロナウィルスの分類が変わることにより、教育課程や学校生活についてコロナウィルス流行以前の様子に戻るかどうか、今後検討等が必要になります。ですが、どのような状況下でも全ての児童が、「学校が楽しい」「学校に行きたい」と思えるようにするため、人間関係の安定とさらなる教育課程の充実に、全職員が共通意識を持って努めていきます。また、地域人材や外部講師の活用、地域と連携・協働した教育課程への編成へと見直しを進めて行きます。

確かな学力の向上

■児童・保護者アンケートから

学習する楽しさに関する質問では、児童は82.2%で、保護者は69.7%と、12.5ポイント、学習意欲に関する質問では、児童は89.7%ですが、保護者は62.6%と27.1ポイントの違いが出ています。これらは毎年同じ傾向が表れ、保護者の子どもに対する期待の表れでもあり、昨年度に比べ特に児童と保護者の差が開いています。その違いを縮められるように、自主学習等の取組や児童の頑張りを保護者に知らせていきたいと思います。

■自己評価から

コロナ禍の中、今までのようなグループワークや話し合い・教え合い活動に制限がかかることや、音楽や体育では活動を控えるものがある中で、一人一台端末の活用や指導方法の工夫により、昨年度や中間期と比較しても評価的に上昇しています。

■改善のポイント

今年度の実績を生かし、一人一台端末の活用をさらに進め、児童のやる気を引き出せるような教科指導を工夫していきます。「授業の構造化（やまなしスタンダード）」の取組を継続・充実させ、確かな学力の向上を図ります。「後小ノート」の取組を継続し、一人一台端末の持ち帰りなど、家庭学習の充実・習慣化を進めていきます。

全国学力状況調査やNRTの結果を分析し、学級や児童個人にあった学習指導に取り組んでいきます。

豊かな人間性を育み、心の安定を図る生徒指導

■児童・保護者アンケートから

「明るい気持ちで生活しているか」という質問に対して、児童92.5%、保護者91.9%が肯定的な回答をしています。比較的多くの子ども達が安定して生活していると感じられます。

「名前を呼ばれたら【はい】と返事をしている」という項目は、児童93.9%が肯定しているのに対して、「お子さんは 進んで挨拶をしている」に対し保護者は74.4%と、ここ数年児童と保護者の意識に差がみられる項目でした。児童はしていると思っていても、保護者は児童の認識ほどは受け止めていないようです。

■自己評価から

中間期の実現率が低かった項目も、年度末になり評価が上昇した項目があり、全項目十分達成している評価となった。「児童は友達や教師との人間関係もうまくいき心身の健康が保たれている」、「児童は互いに認め合い明るく元気に活動している」の評価が改善されているのは、先生方が児童理解や学級経営の充実に努めているからです。「児童理解を深め、心身の問題の早期発見、早期対応に努めている」では、教職員が児童理解や問題の早期発見・早期対応を目指して、職員間の情報共有や継続的な指導等、児童理解のための取組を行ったため、保護者から先生方が子どもをよく見て対応しているというコメントが多く寄せられました。

■改善のポイント
児童アンケート(いじめアンケート)や児童観察をもとに、児童理解に努め、問題を早期発見したり、保護者との連絡を密にするなどして、全職員で問題解決をしていきます。
学級経営を充実させ、児童同士、児童と教職員のつながりを強くしていきます。日常のあいさつや返事を活発にするための強化週間を設定するなど、児童会と連携して取り組んでいきます。

体力・健康・安全に関する指導の充実

■自己評価から
「保健・安全の配慮」、「生活安全、交通安全、災害安全指導」については、毎回、実現率が高い項目となっています。しかし、⑰「児童にとって良い環境である」の項目についてはA評価でも実現率がやや低いようです。
水泳やマラソン、なわとび等は、学校行事の中で体力向上の役割を果たしています。今年度はコロナ禍の中で実施できるよう、内容を工夫・改善することで活動することができました。避難訓練や防犯教室については、計画通りに安全教育が進められました。
■改善のポイント
今年度の取組を生かし授業や行事を通した体力向上の取組を引き続き行うとともに、災害・事故に備え、「自分の命は自分で守る」意識をもたせる指導を続けていきます。
学校施設の修繕については、市当局と相談しながら、危険箇所の修繕を行っていきます。引き続き国や県の施策を確認し、熱中症や感染症対策に取り組んでいきます。

開かれた学校づくり

■保護者アンケートから
本校の保護者は、「学校や子どもの様子を知る機会にしている」98.6%や、「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る良い機会になっている」96.7%という回答からも、学校や子どもの教育に対して高い関心をもっていることが分かります。
「家庭との連絡や保護者・地域に丁寧に対応できている」は、94.3%が肯定的にとらえています。しかし、否定的な回答や「わからない」という回答がなくなるように、努力していかなければならないと考えます。
■自己評価から
「地域素材の教材化・地域社会の人材活用」では、コロナ禍の中でしたが、書写や音楽、総合学習や生活科の授業の中で外部講師や地域の方をお呼びし授業を行うことができました。そのため、実現率や評価も昨年度に比べ上昇が見られました。学校開放日や地区懇談会が行われない中ではありましたが、学校便りや学年・学級便りで学校の様子をお知らせすることで、情報交換をするように努めてきました。
■改善のポイント
コロナ感染防止を考えた授業参観や学校開放日を今後も設定し、子ども達の様子を知るよい機会となるように、全保護者に開かれた学校づくりを目指します。
「地域の人材活用」では、学校で必要な地域人材・指導内容を調査し、学校運営協議会を通して地域に協力を求め、人材リストを作成していきます。WEBの調査を行い保護者の多くの意見を学校行事の見直しに役立てていきたいです。

教職員としての力量を高め、信頼される学校づくり

■自己評価から
協働体制による学校運営や研修や修養による教職員の資質向上については、昨年度の反省をふまえ、職員が共通理解のもと、協力し合っている姿がうかがえます。全職員が協働して学校づくりに取り組んでいることを、日頃から強く感じています。
保護者との連携では、各担任が、学年だよりや電話連絡・必要に応じて家庭訪問を行って、家庭との連携をしてきています。また、保護者アンケートの結果から、多くの保護者の方々から肯定的に捉えられていますが、今後、より丁寧な説明をしていくことが大切だと思います。
■改善のポイント
学校、家庭、地域が連携して教育を進めるために、相互の情報交換や共有を密にする努力をしていきます。特に、学校からの発信は遅滞なく丁寧に伝えていくことで、保護者の方々に信頼される学校づくりを目指します。
教職員一人一人が研究と研修を重ね、教師力を向上させることで、児童の確かな学力の定着と安心して学校に通える学級作り、あたたかい人間関係づくりをこころがけます。
校務の効率化や行事の見直しを試み、職員の多忙化を解消していくことで、子ども達と向き合う時間や資質向上に充てる時間を生み出していきます。